

壮瞥町立小中学校適正配置方針

「次代を担う子どもたちのために

より望ましい教育環境の創造をめざして」

本町では、将来を担う子どもたちに、より望ましい教育環境を整えるため中・長期的な展望に立った「壮瞥町立学校適正配置計画」の策定を進めております。

平成25年9月には、基本計画を策定するために、基本的な考え方と進め方を「壮瞥町立小中学校適正配置基本方針（平成25年度版）」にまとめ、その内容を対象校区の保護者、学校関係者へ説明し、保護者へアンケート調査を行いました。

この「壮瞥町立小中学校適正配置方針」は、意向調査等を踏まえ適正配置に向けた具体的な方針と進め方をまとめたものです。

平成26年7月

壮瞥町教育委員会

目 次

1 適正配置に関する検討の経緯	
1) これまでの経緯	P 3
2) 新基本方針説明会の開催概要	
3) アンケート調査	P 4
4) アンケート調査結果説明会	P 5
5) アンケート及び説明会での意見	
2 適正配置方針	P 6
3 今後の進め方	P 7

1 適正配置に関する検討の経緯

1) これまでの経緯

平成21年3月に策定した「壮瞥町立小中学校適正配置基本方針」については、説明会等を開催した際に、次のとおり意見、要望を受けた。

- H21. 5. 25 議会全員協議会（とりまとめ）説明を受けた。地域に説明して報告を受けたい。
- H21. 9. 1 久保内校区保護者説明会（会場 久保内中学校）
- ・人数にこだわりすぎているのではないか。
 - ・教員の確保を単独でできないか。
 - ・久保内の子どもを育てる環境は素晴らしい。残すべきだ。
- H21. 11. 10～11. 14 町政懇談会（久保内校区3会場）
- ・閉校になれば若者が住まなくなる。定住策を講じる必要がある。
 - ・複式は良くない。解消に力を尽くして欲しい。
 - ・久保内の教育環境は素晴らしい。町内に複数校あるとよい競争が生じる。両校あわせても規模は小さい。統合には反対。定住策が先である（複数）。

「ふれあい団地(H24 棟)」はこうした意見を踏まえ「公営住宅等長寿命化計画(H22. 3 策定)」で位置づけ整備された。教育委員会では町の定住策の動向とその効果を注視してきたが、久保内校区では児童生徒数の減少が加速していることから平成25年10月、新たな適正配置基本方針（以下「新基本方針」という。）を策定した。

【壮瞥町立小中学校適正配置基本方針（平成25年度版）は資料1参照】

新基本方針については、平成25年9月26日に保護者を、同年10月4日には学校関係者を対象に説明会を開催し、その後、保護者にアンケート調査を依頼した。

その概要は以下のとおりである。

なお、9月13日、10月11日に議会全員協議会においても説明を行っている。

2) 新基本方針説明会の開催概要

(1) 保護者説明会

日 時 平成25年9月26日（木）19：00～20：15

場 所 壮瞥町立久保内中学校 体育館 参加者43名

(2) 学校関係者への説明会

日 時 平成25年10月4日（金）19：00～20：35

場 所 壮瞥町農村環境改善センター 参加者23名

<意見の概要>

- ・平成の初めに複式学級となり、その前に教育委員会と統合を議論した経緯がある。
 - ・久保内中学校の教育は素晴らしい。統合しても1学級。学力差が生じる懸念がある。
- 滝之町のように定住対策を久保内でも行う必要がある。閉校は地域がなくなる。

回答 保護者、地域と考へ、方向性を導き出す考へである。意見は理事者に伝える。

3) アンケート調査

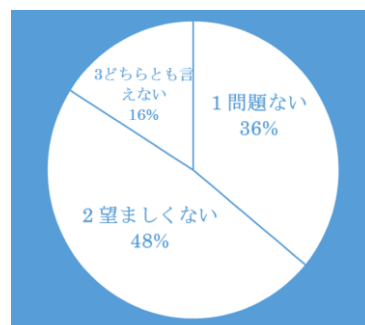
【アンケート調査の結果は資料2参照】

- 調査対象 32世帯 久保内小・中学校の保護者及び校区の未就学児童の保護者
- 調査期間 平成25年10月8日～10月16日
- 回収率 25世帯 78%

主な設問と回答は次のとおりである。

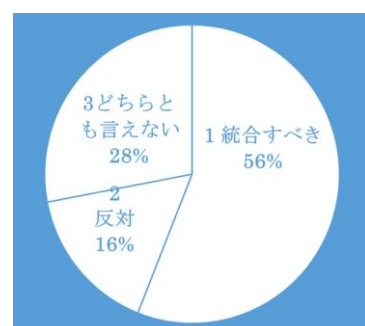
【問4】久保内中学校の複式学級について

現状の生徒数の推計では、平成27年度以降、久保内中学校では複式学級となり、教職員数が減少します。該当するものをお選びください。



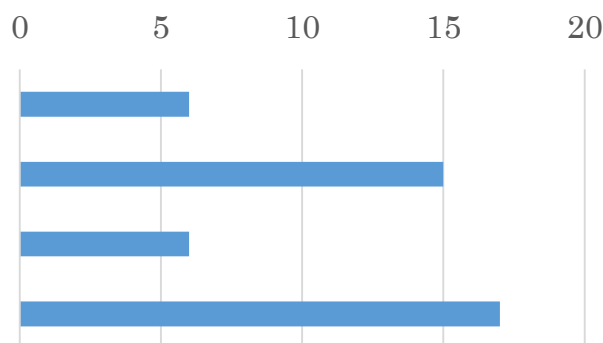
【問7】久保内中学校の将来について

久保内校区は、今後も児童生徒数の減少傾向が継続し、久保内中学校の複式学級の解消する見込みは難しい状況です。久保内中学校の将来について、該当するものを選び、その理由もお聞かせください。



【問8】仮に、学校統合をする場合の不安な点があればお聞かせください。

- ① 校区が広がると、スクールバス等での通学時間が長くなる。
- ② 個性や特性に応じた教育活動や、きめ細かな指導の場面が少なくなる。
- ③ 学校全体での生徒の掌握が難しくなる。
- ④ 中学校は、地域コミュニティの拠点であり、学校がなくなると、地域の活力が低下し、地域と連携した活動が難しくなる。

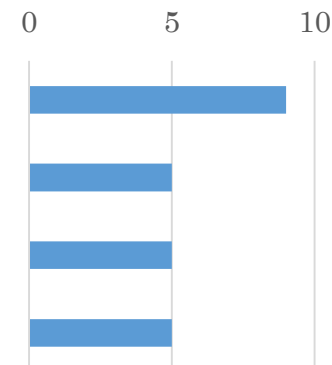


【問9】学校施設（校舎・体育館など）について

久保内中学校は、昭和57年に建設され、また、壮瞥中学校も昭和52年に建設されており、今後、老朽化が進むと大規模な改修が必要となり、いずれ建て替えが必要となります。

考えに最も近いものをお選びください。

- ① 学校統合の際、新たな学校施設（校舎・体育館など）を整備する必要がある。
- ② 学校統合をしても、現在の学校施設をそのまま使用してもかまわない。
- ③ 学校統合は考えていないので、必要に応じ、現在の学校施設を更新すべき。
- ④ その他（具体的にお書きください。）



4) アンケート調査結果説明会

日 時 平成25年11月12日(火) 18:30~19:50

場 所 壮瞥町立久保内中学校 体育館 参加者37名

<意見の概要>

- ・ 閉校は地域が崩壊する不安がある。定住対策を明確に打ち出してほしい。
- ・ 子どもたちにとって望ましい教育環境をつくる責任が大人にあると思う。
- ・ 久保内中学校の教育は素晴らしい。統合しても1学級にしかならず学力差が生じる。複式では先生を町単独で確保できないか。壮小児童の増加はまちづくり事業の成果。久保内でも定住、雇用対策が必要。統合は久保内もなくなる。統合は考えていない。

5) アンケート及び説明会での意見

○保護者アンケート

「複式学級について」は「望ましくない」が48%で一番多く、「問題ない」は36%、「どちらとも言えない」が16%という結果であった。

「望ましくない」とした理由は、「教科指導」「集団活動」「社会での適応力」への不安が各10件であった。「問題ない」とした理由は、「個に応じた細かな指導ができる」「生徒相互が知り合え、教職員との一体感が深まる」が各6件であった。

「久保内中学校の将来について」は「統合すべき」が56%で一番多く、「反対」は16%、「どちらとも言えない」が28%であった。

「統合すべき」を選択した理由は「集団活動の制限、社会での適応力を養うため」が12件で最も多く、「教職員の減、教科指導への不安」が5件であった。

一方、「反対」を選択した理由は、4件記載があり、「定住対策を求める」が3件、「複式でも問題ない」とする意見が1件あった。

また、「どちらとも言えない」を選択した理由は4件記載があり、「個に応じた指導がなくなる不安」が1件、「デメリット又は反対を主旨とする意見」など3件あるが、「人数的な観点」から統合に肯定的な意見が4件あった。

「学校施設(校舎・体育館など)について」は、「学校統合の際、新たな学校施設を整備する」との回答が9件あった。「現在のまま」、「学校統合は考えていないので必要に応じ施設を更新」が各5件あった。

○アンケート及び学校関係者の意見

「久保内校区は、地域住民が学校の教育活動に主体的に参画し、地域とともにある学校づくりが伝統的に実践されており、こうした教育活動を評価する」という認識・評価がある中で、「集団生活の中で社会での適応力を養うこと及び教科指導体制の確立が重要」という意見が多数あったところである。また、閉校に伴う「地域力の低下、地域コミュニティの崩壊への懸念」と、課題の解決策として「定住対策」を求める主旨の意見が保護者、学校関係者から多数あった。

2 適正配置方針

これまでの適正配置基本方針及び新基本方針で示した現状を踏まえ、アンケート及び学校関係者の意見を尊重し、校区の教育実践、伝統、文化を十分継承し、子どもたちにとって望ましい環境づくりを行うことを基本として、全町的な視点から計画的に適正配置を推進する。

久保内校区における教育活動を評価する意見及び「統合後、地域活力の低下」を懸念する意見が多数あることから、必要な措置と十分な配慮を行い、**地域の理解と協力のもとで円滑に推進することを基本として、次のとおり調整する。**

○ **適正配置の方法** 久保内中学校を壮瞥中学校に統合する。

○ **適正配置の時期**

- ・ 各学校の交流、学校施設整備への準備等を総合的に考慮し、**平成28年度末までに統合することを目標とする。**
- ・ 目標年次までの間、教科指導に支障がないよう配慮するとともに、集団活動による社会での適応力を養うため、両校生徒や校種間の交流を一層促進する。
- ・ 生徒数や社会情勢の変化により見直しが必要とされる場合は変更を行う。

○ **適正配置に係る学校施設**

- ・ 統合後の中学校の校舎は、**壮瞥高等学校の校舎として活用を図る方向で検討する。**

※移転に伴い想定される課題を整理し検討する。

(校舎の改築(加工室、バイオ室)と実習農場(現20,500㎡)等の確保・整備及び教員住宅の整備、通学環境の検討(公共交通ダイヤの見直しと伊達紋別駅―学校間スクールバスの運行など)、現高校校舎、跡地の活用 など)

- ・ 第3次行政改革(平成13年)以降、あり方が検討されてきた青少年会館(昭和45年築)は代替施設の整備を図り、跡地については地域と調整、幅広い視点で有効活用を検討する。
- ・ 壮瞥中学校の校舎は耐震化済であるが、統合の目標年次には築約40年となることから、望ましい学習環境として必要な校舎を整備する方向で検討する。

○ **適正配置にあたり配慮すべき事項**

- ・ 特色ある教育活動を引き継ぎ、個に応じた指導ができるよう十分配慮する。
- ・ 統合後の学校生活が円滑にスタートできるよう教員配置に十分配慮する。
- ・ 通学は、バス通学とする。久保内中学校 ― 壮瞥中学校 所要時間 約10分
スクールバスの運行は教育委員会、学校及び保護者との調整を行うこととする。
- ・ 生徒間、保護者(PTA)の交流事業を推進、支援する。
- ・ 学校統合後、地域の活力が低下しないよう定住策、地域振興策の推進に配慮する。

3 今後の進め方

新基本方針の考え方と同様、**保護者・地域との情報及び認識の共有**を行い、**十分な理解と協力のもとで進めることを基本とする**。また、**適正配置、再編は地域や町の行財政に大きな影響を与えることから、町理事者、関係課との調整を十分図ることとする**。

(これまでの経緯)

平成25年	1月	壮瞥町立小中学校適正配置方針(案) (教育委員会で継続検討)		
	12月	壮瞥町議会議員・教育委員懇談会		
平成26年	2月14日	教育委員会で 適正配置方針(案) を決定 (町理事者と調整)		
	2月14日	説明会 (校区保護者・学校関係者)	27名	久保内中学校
	18日	町政懇談会 (久保内2~5)	14名	改善センター
	27日	説明会 (久保内未来塾)	9名	青少年会館
	3月11日	教育懇談会 (校区保護者)	17名	久保内中学校
	18日	説明会 (久保内校区及び全町)	12名	改善センター
	4月30日	説明会 (壮瞥校区保護者)	18名	山美湖
	5月1日	教育懇談会 (久保内校区保護者)	16名	久保内中学校
	8日	説明会 (壮瞥校区、全町民)	3名	山美湖
	20日	説明会 (久保内校区、全町民)	8名	改善センター
		↓		
平成26年	7月	日	<u>適正配置方針決定 (町理事者判断)</u>	

(今後、予定される作業日程等)

壮瞥町立学校適正配置計画(案)の策定作業開始

- ・ 学校運営、教育活動(教員配置)、スクールバス運行計画
- ・ 閉校校舎の活用、校舎整備、学校再編実施計画
- ・ 生徒間、保護者(PTA)の交流事業を推進 など

壮瞥町立学校適正配置計画を決定 必要な予算措置

(年度別、予定される作業等)

平成27年度	適正配置計画の円滑な推進 及び 校舎・施設等 の環境整備
平成28年度	
平成29年4月	中学校統合
平成30年4月	空き校舎の活用 開始